HAT－J NEWS
日本ﾋﾏﾗﾔﾝ ｱﾄﾞﾍﾞﾝﾁｬｰ ﾄﾗｽﾄ ﾆｭｰｽ No.1

〒150 東京都渋谷区神宮前4-32-7
日本 ﾋﾏﾗﾔﾝ ｱﾄﾞﾍﾞﾝﾁｬｰ ﾄﾗｽﾄ
発行責任者　田部井淳子

南極大陸の徹底した環境保全

－ビンソン・マシフに登頂した田部井さん、北村さんのお話－

代表の田部井淳子さん、女子登攀クラブの北村節子さん、真島花子さんら、とともに、さる１月１９日に南極大陸の最高峰ビンソン・マシフ（4,897ﾒｰﾄﾙ)に登頂して、六大陸の最高峰踏破を果たしたことは、新聞報道などで御存じのとおりです。

登頂記は、山岳雑誌等でお読みいただくとして、ここではＨＡＴ－Ｊ会員の関心事である環境保全が、南極でどんなふうに行なわれているのか、田部井さんと北村さんにレポートしてもらいました。

T『南極へ行くといっても、私たちの場合は、カナダのエージェント、アドベンチャー・ネットワークの所有機を使って南極大陸に渡り、同社のガイドと一緒にルートをたどったわけ、だから結局、自然保護のノウハウも彼らのマニュアルに従ったことになる』

K『そう、微生物が殆どいない南極大陸では、何かゴミを残すと、未来永劫そのまんま、だから先ず何も残さない、という姿勢は徹底していたね』

T『例えば食品、日本のように小分けにした丁寧な包装のモノは少なくて、粉ミルクやコーヒーも大きなプラスチック袋にドサッ、献立も毎日ほとんど同じ、これは食生活の面から問題は多いけれど、確かにパッキングはシンプルにはなるね』

K『燃料も低温に強いという意味もあってガソリン使用。カートリッジじゃなかった』

T『排泄物も固形のほうは持ち帰る方針で、だからキャンプ地に着くと、先ずトイレを建設するの。ブロックで台座を積んで、厚手のプラスチック袋をセットして、そこに携帯用の便座をのせる、と出来あがり』

K『すぐに凍るから不潔感はなかったね。けれどさすがにすぐ持ち歩くわけではなくて、密閉して置いといて、帰りに回収していくか、次のパーティーにまわす、というシステムだった』

T『マッキンリーの場合、黒いプラスチック袋に詰めて、クレバスに落せ、という公園管理事務所の指導だったけれど、あれより徹底していた』

K『飛行機乗り継ぎ基地でも回収していた。ということは最終的には飛行機に積んで南米大陸まで持ち帰るわけだ』

T『彼らが言うには、アメリカは使い捨て文化が日常に染み込んでいる。その点カナダは自然をそのままに、という思想が子供時代から叩き込まれている、と』（次頁へ続く）

K『ガイドの一人が９０年秋にエベレストにいったときの話をしていたけれど、ワンシーズンで、ベース・キャンプに隊員２００人、シェルパ１５０人、合計３５０人が集まった、といっていたね。エベレストのベース・キャンプまでは、トレッカーも行くし、ゴミは持ち帰るようになったとしても、排泄物までは持ち帰らないからね』

T『ホント、世界各地で、山の環境保護を考えている人達がいることは、わかっているけれど一方で、事態は急を要するところまできていると、痛感させられる旅だったね』

ＨＡＴ－Ｊからのお知らせ

Ｔａｋｅ　ｉｎ　Ｔａｋｅ　ｏｕｔ運動

ＨＡＴ－Ｊは、昨年１０月１６日に発足してから、今年の１月１３日にヒマラヤを汚染しないためのシンポジウム開催、４月３日に関東地区在住会員を対象とした自然保護勉強会を開くなどの事業を展開してきました。

同封した緑の冊子は１月１３日のシンポジウムの検討成果や意見を集約したものです。ヒマラヤだけでなく、国内の登山でも参考になる意見がたくさんあると思います。ご参考になれば幸いです。

また、この冊子は『Ｔａｋｅ　ｉｎ．Ｔａｋｅ　ｏｕｔ』運動の一環として発刊したもので、各都道府県の山岳団体、主なスポーツ、登山用具店に配布しました。山を汚さないようにしようとする登山者が増えることを願って、展開する運動の一環です。

４月３日の自然保護勉強会は『アメリカの環境保護運動』に詳しい岡島成行氏に講演をお願いしました。５０万人から１００万人の会員を擁するアメリカの自然保護団体の活動や、政治を動かす力に、出席者一同は羨ましさと感銘を受けました。ＨＡＴ－Ｊの運動もこのように幅の広い人達を結集したものにしたいものです。

詳しいお話は、岩波新書、岡島成行著『アメリカの環境保護運動』（580 円）を、お読み下さい。

会員７００人を突破

ＨＡＴ－Ｊの会員は、４月３０日現在で、７３６人、会費の累計も４００万円を超えました。会員の内訳は、山岳団体関係者が３分の２、３分の１が、環境問題に熱心な一般の方々です。田部井代表はじめ世話役一同は感謝の気持ちをこめて、皆様の浄財は１銭でも無駄に使いたくないと考えています。会計報告は今年１１月に開催する国際会議後に詳しくいたしますが、この国際会議には、数千万円の経費が必要です。このため田部井代表を中心に企業募金を始めたところです。この会報第一号も、やっとの思いで発行しました。

ＨＡＴ－Ｊ全国一斉清掃登山のお誘い

日本ヒマラヤン　アドベンチャー　トラストは、６月２日（日）から９日（日）までの一週間を『日本の山の清掃週間』として、日本中の山岳関係者、団体に呼びかけて、全国一斉に清掃登山を実施することになった。計画の固まった清掃登山は次のとおり。

◎６月２日（日）午前１０時から開かれるウエストン祭で、田部井淳子ＨＡＴ－Ｊ代表が講演する。この機会に田部井淳子とともに、有志による上高地周辺の早朝清掃の実施。午前７時半～８時にウエストン像前広場に集合、バス・ターミナル前のゴミ焼却場に、ゴミを分別して持ち込む。（ゴミ袋、ゴミ挟みは、自然公園美化管理財団が用意）

◎６月９日（日）田部井淳子とともに表丹沢周辺の清掃登山。

①集合場所、時間　大倉　バス停留所に午前７時～８時までに集合。

②軽登山の服装と装備、弁当、雨具持参。軍手、ゴミ袋は主催者が用意します。

③清掃場所は大倉尾根、二の塔周辺、三の塔尾根など、表尾根、塔の岳周辺。

④各組１０人程度で一人のリーダーが付き、回収したゴミは自治体が処理します。

⑤午後４時頃に解散。雨天中止。

なお、ＨＡＴ－Ｊでは、全国の山を愛する人達に、手近な山のゴミ回収運動への参加を呼びかけています。６月中の都合の良い日に、近郊の山のゴミを回収して、その清掃活動の実態と参加者の氏名を、次のとおりＨＡＴ－Ｊまで手紙、葉書などで報告して下さい。後日、総合報告書を作成して会報などに発表します。

＊宛先　〒150 東京都渋谷区神宮前4-32-7　日本ヒマラヤン　アドベンチャー　トラスト

ＨＡＴ－Ｊ国際会議のお知らせ

ＨＡＴ－Ｊが主催して、１１月９日から１１日まで、東京（昭和女子大の施設）でエベレストの初登攀者エドモンド・ヒラリー卿、登山家のボニントン氏、８千ﾒｰﾄﾙ峰１４座を完登したメスナー氏など、著名な登山家を招き、次のとおり国際会議を開きます。

◎第一日目　１１月９日（土）12.00~17.00 講演会（昭和女子大　人見講堂）
　　ヒラリー卿、ボニントン氏、メスナー氏（映像つき）を予定。
　　同日(9日)18.30~20.30　レセプション（昭和女子大食堂で５００人を予定）

◎第二日目　１１月１０日（日）分科会(ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ) 9.00~12.00　（昭和女子大施設）

♣遠征（登山）　メスナー氏、ミソロフスキー氏、エルゾーグ氏、坂下直枝氏

♣旅行（トレッキング）　ヒラリー卿、ポカレル氏、コーリー氏、ミルザ氏、旅行会社代表（人選中）

♣生態、文化（人と自然）　ボニントン氏、バンデンブーデ氏、リチャード・ブルム氏、沼田真氏、中尾佐助氏、川喜田二郎氏.

◎１１日は富山へ移動。会員の皆様には、改めてご案内を差し上げます。ご期待下さい。

自然保護随想

♣田部井さんは、南極の清浄な美しさに、大きな感銘をうけたようです。だから真っ白い雪原に誰かが落した「ほんの少しの煙草の灰」が、ものすごく気になったそうです。

♣山へ登る人たちにも、自然にたいして優しく気を配る人と、無頓着な人がいます。それは、登山の技術が優れているとか、未熟とかに関係がなく、残念なことに自然への知識が多い、少ないにも関係がないようです。

♣自然保護協会が主催した自然観察指導員の講習会で、講習生のなかに山道に生えている野草を注意深くまたいでいく人がいる一方で、無頓着に踏んで歩いていく人が、男女に関係なく結構いました。それはショックな体験でした。

♣このような気にしない人たちが、何か月もお風呂に入らないで、ヒマラヤなどの高い山に登れるんだ、という人もいます。しかし美しいものにたいする感受性の高い人たちでも、お風呂に入らないで、高い山に登る人が大勢います。田部井淳子さんは後者です。

♣日本で一番古い山岳会は、明治３８年（１９０５年）に創立されました。発起人７人のうち４人は未成年でした。しかし、その人たちは高山植物、高山蝶に関しては、当時の大学教授以上の権威者でした。

♣彼らが子供の頃、トンボとりや、かぶとむし、くわがた、などの昆虫と遊んだに違いない。そして自然に興味をもち、愛するようになったのだと思います。昆虫学の研究者によると、子供達がトンボとりをしたぐらいで、トンボが絶滅することはない、といいますが、都会の子供達には無理な話でしょう。都会の子供達が、自然を愛せるように育つのは、どういう「きっかけ」からなのでしょう。それを探すのも、私たちの課題です。

♣チョゴリサの初登頂者の藤平正夫さんが、中国の青海にいったときのお話『ヤクが白い花をさかんに食べている。よく見ると、それがエーデルワイスなんだな。だからといって、彼らが自然保護に無関心とはいえない。いまはヤクが飢えないことが大切で、来年その辺一帯に、またエーデルワイスがいっぱい咲くのを本能的に知っているんだ』

♣中尾佐助さんのお話（アフリカやアラブの一部では）『家畜を数多く持っているのが財産家ということになっている。この地域には、山羊１０頭ならよく育つし、乳も一杯でるし豊かになる、と説明しても駄目で、痩せっこけた山羊を１５頭から２０頭、生きてく限界まで飼っている。乳も少ししかとれないし、乏しい草を根こそ食べてしまうから砂漠化は進むし、貧しい暮しをしているんだが、彼らは１０頭飼うより金持ちだと思っている』伝統や文化の違い、環境保全の考え方の差。難しい問題です。　（関塚）

♣編集後記　４月３日の講演会での岡島さんのお話『山でもヒマラヤに登った人は、登ってない人に優越感を持ち、自然観察でも２年か３年先輩で、少しばかり知っているからと偉そうにするのは良くない習慣です』とありました。これに答えて田部井さん『ＨＡＴ－Ｊは皆一緒で、先輩も後輩もない会です』出席者一同、大拍手。